

季節の行事各地で開催

病氣にかからず
今年も健康で

1月上旬、町内の各集落では鹿児島の伝統行事「鬼火たき」が開催されました。

「鬼火たき」の燃え上がる炎や青竹の弾ける大きな音は家庭に災いをもたらす鬼を追い払い、この火で餅を焼いて食べると病氣にかからないと言い伝えられています。

写真は下中福良集落の「鬼火たき」で、4年前にそれまで集落の子どもが少なくなり

実施が途絶えていたものを復活させました。

格子状に組まれたやぐらは縦横4m、高さは10mほどあり年末の12月26日に、子ども会と集落の有志が協力して国道267号線沿いに製作されたものです。

1月4日夕方に、正月に飾った門松なども投げ入れられたやぐらに、今年の年男竹之内義彦さんが点火すると、白い煙を出しながら炎が勢よく燃え上がり、竹が弾ける音が鳴り響く度に子どもたちの歓声が響いていました。



▲燃え上がる下中福良集落の鬼火たき

これからも
すくすく育ってね！

1月7日は七草。

町内の神社では、子どものすこやかな成長を願って、祈願祭がおこなわれました。

昔は数え年で7歳の子どもがいる家では、近所を訪問し、七草ズシ(粥)や祝い金をもたらってまわったそうです。

求名の稲富神社では、今年満年齢6歳になる着物を着た6名の子どもたちが、宮司からお祓いを受け健康を祈願しました。



▶稲富神社お祓いの様子

第4回現代ガラスの美展 IN 薩摩

入選作品の紹介⑭ (居住先・年齢は応募時、敬称略)

小西 潮 (神奈川県在住 38歳)

花文様の花器

ガラス表面に、小さい花文様を配置し、水を入れることによってダイナミックに変化する文様を花器として楽しんでもらえるよう制作しました。



松藤 孝一 (佐賀県在住 30歳)

鳥口笛子像 (とりくちふえこそう)

日本の文学や美術の世界に古来から表現されているわび、さび、幽玄などの、形に表わしにくい風流や粋の心を大切にして作品を制作しています。



谷澤 春子 (東京都在住 21歳)

I've Got Mail (私は神のメールを持っている)

人と人のつながりを、身近で個人的でありながら普遍的でもある「メール」を使って制作しました。



佐野 曜子 (富山県在住 40歳)

Sunflower Basket (ひまわりカゴ)

その時々にはガラスは、いろいろな表情を見せます。時間をかけ少しずつ手を加えることによって愛着が湧き自分自身の気持ちを作品に反映できる気がします。

